

サント

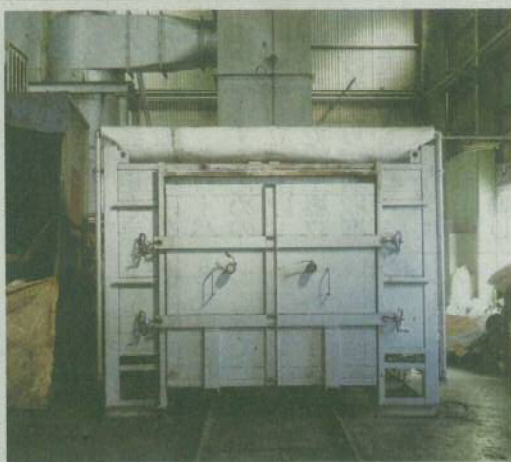
レアメタル リサイクル 前処理フル操業

年間2400トン体制を構築

レアメタル商社のサント(本社=東京都江東区、今川信雄社長)は、昨年本格稼働したレアメタルリサイクルの前処理工場がフル操業に入った。超硬工具の製造工程で発生する汚泥(スラッジ)や二次電池などのリサイクル原料を、安定的に月2000トン処理しており年間2400トン体制を構築した。超硬工具スラッジについては、シリコン純分が高いものやタンクステン純分の低い難処理原料のリサイクルシステムも確立。海外流出している資源の国内循環を後押しする。

難処理原料も工程確立

サントは超硬工具メーカーから集荷。静電集塵機による濃縮する。の製造工程で発生する。 岡県内にあるグループ 前処理により金属分を炭化タンクステン(W 濃縮したリサイクル原料をスラッジを、委託 使い乾燥、焙焼処理を料をメーカーに供給する。加工や買い取り形式で 行い、タンクステン分



スラッジを焙焼する定置炉

炭化タンクステンスラッジは水分や油分が多いため、産業廃棄物として処分されることが多い。リサイクル業者が有価物として引き取る場合もあるが、水分と油分の多さで適正な評価が難しい。サントは正確な計量データを委託加工の契約先などに提供し課題を克服。適正な評価により工場の処理量も増加し月2000トンの設計能力に達した。さらに現在2交代制の作業体系を3交代制にすることで、2015年度中には年間処理量を3000トン、年間36000トンに引き上げる計画だ。

また超硬工具の製造時には、使用する切削油の濾過材の珪藻土(シリコン)がスラッジに混入する。しかしシリコン純分の高いスラッジはリサイクルが難しい。タンクステン純分が低い原料も同様。サントはシリコン純分が高い原料も同様。炭化タンクステンスラッジは水分や油分が多いため、産業廃棄物として処分されることが多い。リサイクル業者が有価物として引き取る場合もあるが、水分と油分の多さで適正な評価が難しい。サントは正確な計量データを委託加工の契約先などに提供し課題を克服。適正な評価により工場の処理量も増加し月2000トンの設計能力に達した。さらに現在2交代制の作業体系を3交代制にすることで、2015年度中には年間処理量を3000トン、年間36000トンに引き上げる計画だ。

動きが活発化している。しかし難処理原料は国内リサイクルでは採算が合わず海外に流出しているのが現状。精錬工程の前に酸化焙焼という前処理を行うことにより、日本国内で経済的にリサイクル

黄銅管

一部で加工賃引上げ 電力料金転嫁、10円前後

黄銅管の一部メーカーは、4月から関西電力管内の電力料金の値上げを受け、素管加工賃(ロールマージン)値上げに動いている。4月から関西電力管内の電力料金の値上げを受け、素管加工賃(ロールマージン)値上げに動いている。

大阪チタニウムテクノロジーズの2015年3月期の業績は、長引く在庫調整によってスポンジチタニウム材料を調達している口

インク社が約40%のチタニウム材料を調達している口。昨年稼働率を50%単位で響くことになる。陽光向けのメーカーが設備投資を減らすと見通し。期業績でも優に2桁の億米に達する事情があり、太陽光向けのメーカーが設備投資を減らすと見通し。

年ぶりのことで、上げ幅はキロ10円前後とみられる。給排水、ラジエーター、復水器向けなどに使われる黄銅管は、溶解・鋳造を行う専門の素管メーカーと、その素管を抽伸・拡張する再伸管メーカーにおおまかに分かれている。高周波炉などで黄銅原料の溶解を行う素管メーカーは、製品価格に占める電力コストの割合が高いため、電力代値上げが確定していた昨年末から準備を進めてきた。

黄銅管の加工賃値上げは前回、電力料金が大幅アップした2013年春にも実施されたが、今回の値上げ幅は

半導体製造装置

14年、販売額18%増

中国、日本抜き4位に

世界半導体製造装置出荷額

地域	2014年	対前年比成長率
台湾	9.41	11
北米	8.16	55
韓国	6.84	31
中国	4.37	30
日本	4.18	24
欧州	2.38	25
その他地域	2.15	4
合計	37.50	18

半導体分野の国際取引統計によると、黄銅管の国内生産は06年の1万6163トンから、14年の8752トンまで大きく縮小している。素管・再伸管の各メーカーも、出荷ロットの小口化により生産性は低下しており、加工賃値上げ後も、依然として厳しい経営環境に置かれている。

装置分類別では、組み立ておよびパッケージング装置が全世界で33%増、テスト装置は31%増、そのほかの前工程装置は15%増、ウエハープロセス用処理装置は15%増といずれも好調に推移した。

米アルコア、南米スラルコ アルミナ精製能力削減

米アルミ大手アルコアは、南米スラルコで操業するスラルコ工場を削減する方針を明らかにした。併せて、スラルコの国有企業にスラルコを売却する方向で同国政府と合意したと明らかにした。

それをめどとする。アルコアは影響を受ける社員に対して退職プランを提示する。能力削減が財務に重大な影響を及ぼす見通しはないとしている。スラルコの年間精製能力は220万トンだが、現在は87万6000トンが遊休状態にある。アルコ

きょうの紙面

11面
 11面
 11面
 11面